

第1回若者まちづくりミーティング・第1回蒲郡市公共施設マネジメント実施
計画策定会議 合同会議 概要

1 日時

平成28年7月18日(月) 午後2時から午後4時まで

2 場所

生命の海科学館 メディアホール

3 出席者

- (1) 若者まちづくりミーティング参加者(総人数15名の内14名出席)
(出席者内訳)
 - ・高校生 4名
 - ・大学生及び大学院生 7名
 - ・社会人 3名
- (2) 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議委員
別添「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議委員名簿」のとおり
- (3) 名古屋大学大学院工学研究科 恒川 和久 准教授
(若者まちづくりミーティングのファシリテーター兼蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議の座長)

4 議事

- (1) 主催者あいさつ
蒲郡市総務部次長よりあいさつ
- (2) 公共施設マネジメントの必要性
恒川准教授より、公共施設に関わる課題、他自治体との比較に基づく蒲郡市の公共施設の現況及び公共施設マネジメントの意義について説明
- (3) 蒲郡市公共施設マネジメント事業について
事務局より、蒲郡市の現状と課題、これまでの取組み及び今後の取組みについて説明
- (4) ご出席者自己紹介及びご感想の発表
若者まちづくりミーティングの参加者及び蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議委員より、会議内での説明を聞いた感想や、今後の会議に対する意気込み等を発表いただきました。ご発言内容は以下のとおりです。
次回以降、いただいたご意見を参考に、会議やワークショップを進めてい

きます。

(若者まちづくりミーティング参加者)

- ◆ 公共施設の縮減は重要だが、縮減だけでなく、魅力を加えることが重要ではないか。市外の人が住みたいと思ってもらえるまちづくりに繋げることが必要。そのようなまちづくりができれば、将来的な財政面の課題も解決できるのではないか。
- ◆ 蒲郡市は、県内の他自治体に比べ公共施設面積が大きいという説明があったが、それらの施設を活用できていないのではないか。市民アンケートでは、利用されていない施設を廃止・縮小するという意見が多かったが、もっと利用されるための方策を考える必要があるのではないか。
- ◆ 市内の企業に勤務しているが、市外から通勤する人も多い。蒲郡で生まれても、市外に移住する人も多い。蒲郡市に住んでもらうために、公共施設を通して、魅力を高めることが必要ではないか。
- ◆ 現状の利用状況だけでなく、高齢化が進む中でニーズがどう変わるかなど、将来のことも考えた上で、議論していきたい。
- ◆ 蒲郡市は、県内の他自治体に比べ公共施設面積が大きいという説明があり、何気なく使っていたが、ありがたいことだったと感じた。
- ◆ 観光振興に繋がるような公共施設のあり方について、意見を出していきたい。
- ◆ 育児をはじめから、児童館などの公共施設をよく利用するようになった。公共施設の縮減も重要だが、公共施設へのニーズも存在する。効率よく公共施設を維持するにはどうすればいいか考えたい。
- ◆ 今後の蒲郡が住みやすいまちになるように、少しでも力になりたい。
- ◆ ファシリティマネジメントの考え方が重要だと感じた。新しい施設を整備しても、将来的には不要になる場合や整備の途中でニーズが変わることもある。現在ある公共施設を有効活用することが重要だと感じた。
- ◆ 蒲郡市の財政が厳しく、公共施設の維持にかかる費用が不足することを初めて知った。自分のように、このことを知らない若者も多いのではないか。情報を伝えていかないと、取り組みが進んでいかない。自分も発信していきたい。
- ◆ 今後、子供を持ち、親になっていくことを考えると、児童福祉施設が多いことは、安心できる。一方で、学校については、空き教室や老朽化が問題になっている。多角的な見方が必要だと感じた。
- ◆ 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針のキーワードが議論の中心になると思うが、ポイントを見失わないように、自らの専門知識も活用して、多

様な視点から議論したい。

- ◆ 以前は高齢者ばかりだった公共施設を、子どもも足を運ぶような施設に変えることもできる。蒲郡市を変えていきたい。
- ◆ 蒲郡市は児童福祉施設が多いにもかかわらず、周囲から住みやすい町とは言われていない。蒲郡市を子供や高齢者でも住みやすいまちとして評価されるようにしたい。

(蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議委員)

- ◆ 「身の丈にあった」公共施設にするための縮減は重要だが、それだけでは寂しい議論になってしまう。まちの魅力を高めるための議論も行っていきたい。
- ◆ 駐車場が少なく、会議室が空いていても活用できない施設もある。公共施設以外にも、高齢者も歩いていける範囲に整備された集会所などが存在する。空き家が増えているが、空き家を公共施設のように活用することもできる。このように、公共施設に限らず、民間の施設も含めて、既存の施設を有効利用する必要があるのではないか。
- ◆ 蒲郡を子供が大きくなった時に、住みたいと思えるまちにしていきたい。
- ◆ 市民はタックスペイヤーであるとともに、タックスイーターでもある。税金を払うと同時に使う立場として考えて考えることが必要。蒲郡市の財政には関心を持たなくてはならない。年平均数十億円という公共施設の維持更新費用をどうするかを真剣に考えなくてはならない。いかにコンパクトなまちにするかという視点から考える必要があるのではないか。
- ◆ 利用者としては、新しく綺麗な公共施設の方が良いので、市外の公共施設を利用することもある。古くても魅力のある施設をつくることが必要ではないか。
- ◆ かなり逼迫している状況と感じた。多少痛みを伴うような対策が必要ではないか。
- ◆ 洋式トイレが無い、エレベーターが無いといった理由から、活用されていない施設もある。身の丈にあった範囲内で、最大限できることをやっていくべき。竹島水族館に入場の行列ができています。日陰がない中で並んでいる。外から来てくれる人が楽しんでいただけるように、仮設の屋根を設置するなどの工夫ができないか。
- ◆ 住む人を確保するためには、既存の公共施設をいかに活用するかが重要ではないか。若者が結婚した時や家を建てる時に住む場所を考える際、地価や通勤時間などに加えて、公共施設のことは必ず考えるのではないか。「生きた」公共施設にしなければならない。